

令和8年10月1日

保護者 様

舞鶴市立倉梯第二小学校

校 長 伊藤 茂

令和8年度 全国学力・学習状況調査(6年生)の結果より

文部科学省による全国学力・学習状況調査は、小学校6年生と中学校3年生を対象に、平成19年度より実施されています。

本年度の調査は

教科に関する調査(国語、算数)

生活習慣に関する質問紙調査

がありました。

教科に関する調査は、令和2年度までは教科ごとにA問題(主に知識を問う)とB問題(主に活用の力を問う)を分けて実施していましたが、令和3年度より知識と活用を一体的に問う形で調査が行われるようになりました。令和6年度から生活習慣に関する質問紙調査のみタブレット端末で行っています。

令和8年度の本校の調査結果は以下のようになっています。

【国語】

国語については、平均正答率が全国平均を若干下回りました。話の中心が明確になるように話の構成を考える問題、漢字を文の中で正しく使う問題はよくできていました。一方、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題、目的に応じて、必要な情報を見付ける問題に課題が見られました。タブレット学習が導入され、鉛筆で文字を書く機会は以前に比べると減少しがちですが、今後、自分の考えや思いを書く力の定着を一層図るとともに、どのように書けば、自分の伝えたいことをより効果的に伝えることができるのかを考える力を育てていきます。また、得ることのできる情報量が以前と比べると格段に増加している中で、自分が必要としている情報、問いに対して必要とされる情報、不必要な情報を選択できる力を高めていきます。

【算数】

算数については、平均正答率が全国平均を若干下回りました。立方体の体積の計算による求める問題、小数の仕組みを理解し、条件に合う小数をつくる問題はよくできていました。一方、体積の意味についての理解を説明する問題、単位量当たりの大きさを求める式の意味を理解し、そこから情報を読み取る問題に課題が見られました。今後、授業の中では「答えが合っていたか」だけではなく、「どのように考えたか」を価値付け、学びを深めていきます。答えよりも答えにたどり着くまでの思考の過程を大切に、自分の考えを表現し、他者の考えと比較しながら学びを深めることで、論理的な思考を育て、応用・発展的な問題にも対応できる力を育てていきます。

【質問紙】

『学級との友達との中で話し合う活動や活動を通じて、自分の考えを深めたり、新しい視点に気付いたりすることができる』という問いに高い意欲が見られました。『集団の中で学び合う意欲』『活動の中から気付きを増やすこと』が少しずつできるようになってきていることがうかがえます。また、家庭での生活習慣や規範意識、自己肯定感など、学びの基礎となる力も育ってきていることが分かります。

今回の結果を受け、こうした力が普段の学習や生活にも活かされるよう、教職員一丸となって取り組んでいきます。児童一人一人に寄り添いながら発達の段階に合わせて丁寧に指導するとともに、小中の連携についてもさらに充実させていきたいと考えています。今後も引き続き、ご理解・ご協力をお願いいたします。